

農を変えたい!

東北集会 in いわて

生産者と消費者がいっしょに、農と食の再生をめざして

2008年

とき

1月26日(土)13:00~

1月27日(日)11:45

ところ

岩手大学

人文社会科学部5号館1F
51大講義室

岩手県盛岡市上田3-18-3



1月26日(土)

- 11:30 受付開始
- 13:00 開会あいさつ
- 13:30 記念講演
愛媛県今治市の農と食のまちづくり
~これまでの歩みとこれからの課題
安井 孝 氏(今治市企画振興部企画課政策研究室)
有機農業推進法をめぐる東北の動き
- 15:30 分散会(5つの会場に分かれて話し合います)
「農と食の再生のために、私たちにできることは」
- 18:00 懇親会(岩手大学生協中央食堂)
「わが地域・団体の生産物・商品のじまん大会」
宿泊(岩手第1ホテル)

1月27日(日)

- 9:00 開会
分散会の報告
 - 9:30 各県からの報告
「有機農業をめぐる動きや実践報告」
 - 10:20 特別講演
農と食の再生のための課題
中島 紀一 氏(茨城大学教授)
 - 11:45 閉会
- プログラムは変更の可能性があります。

お問い合わせ

「農を変えたい! 東北集会 in いわて」実行委員会

〒020-0180 岩手県岩手郡滝沢村土沢220-3
岩手県生協連内(担当・金子)

電話 019-684-2225 FAX 019-684-2227

開催の趣旨

経済のグローバル化の大波のなかで、日本の農業は崩壊の危機に瀕しています。「国際競争に耐える農業」のもと、今年度から始まった「品目横断的経営安定対策」などの新農政は、農業の「担い手」を一部農家に絞り込み、米生産調整(減反)の責任を放棄しました。これによって米価が暴落し、価格・所得補償が切り下げられ、小規模農家だけでなく大規模農家の経営も危うくなっています。

また一方で政府は、農産物の輸入自由化や関税引き下げをさらにすすめていっています。現在交渉中のオーストラリアとの FTA(自由貿易協定)が締結されると、国内の農業生産に大打撃を与え、食料自給率を大幅に引き下げるとの試算も出されています。こうした政策が続けば、日本の農業・農村は崩壊し、食料のほとんどを海外に依存せざるをえない国になってしまいます。しかし世界的には、地球温暖化による気候変化や、穀物のバイオ燃料への使用などによって、食料の争奪合戦が始まっており、日本が今後も安定して食料を輸入し続けられる保障はありません。

食をめぐっても、さまざまな偽装問題や増え続ける輸入食品の安全性など、食の安全・安心を揺るがす事件が後を絶ちません。また食の外部化・産業化が進む中で、便利・おいしさ・安さに流される食生活が広がり、「いのちを育む食」「農を基盤とした食」が崩れてきています。

しかしこうした中で、農と食の再生にむけた新し

い動きもでてきています。「有機農業推進法」が制定され国としても積極的に推進しようとしています。また東北各地でも、有機農業、環境保全型農業や地産地消などの取り組みが広がってきています。もともと東北地方は日本の食糧基地として位置付けられてきたばかりでなく、今日でも昔からの農家の暮らし、食文化、伝統芸能、農村らしさなどが生き続ける地域でもあります。東北の農業がダメになることは、こうした豊かな自然環境、伝統的な文化、芸能、農村のくらしなどがこわされることにもつながります。そしてこのことは、消費者にとっても人ごとではない問題です。

私たちは、東北の農業の再構築を願い、思いを共有する東北地方の生産者、消費者、市民が集まり、2006年1月に山形県で「日本農業の再構築をめざす東北集会」を開催しました。そして2007年2月には秋田県で第2回東北集会を開催しました。

第3回となるいわて集会では、『生産者と消費者がいっしょに、農と食の再生をめざして』をメインテーマに開催します。生産者がいくらいいものをつくっても、「食べ物の真っ当な価値」を認め食べる消費者が増えなくては、農業は変わりません。今回の集会では、生産者と消費者がいっしょにこれからの農と食を考える内容で、講演や分散会を準備しています。

ぜひ、多くの方々にご賛同・ご参加をいただき、いっしょに話し合い、考え合ひましょう。

「農を変えたい! 東北集会 in いわて」

■ 実行委員長

小島 幸喜 (大東町有機農産物等生産組合)

■ 事務局長

真 嶋 実 (岩手有機農業研究会・JA西和賀)

■ よびかけ人

池田 和昌 (いわて生活協同組合・岩手)
石川シゲ子 (花菜油の会・岩手)
石成 寿 (湯沢市有機米栽培研究会・秋田)
伊藤智雅子 (JA岩手県女性組織協議会・岩手)
伊東 庚子 (大東町産直センター・岩手)
井上 善蔵 (湯沢市有機米栽培研究会・秋田)
岩崎 隆 (JA岩手県青年組織協議会・岩手)

小笠原一行 (岩手県農業協同組合中央会・岩手)
荻原 武雄 (いわてコメネット・岩手)
小島 幸喜 (大東町有機農産物等生産組合・岩手)
小島 進 (ちいさな野菜畑・岩手)
加藤 善正 (岩手県生活協同組合連合会・岩手)
神田 建策 (弘前大学・青森)
熊谷 純一 (福島県生活協同組合連合会・福島)
栗田 和則 (最上農業農村塾・山形)
小関 恭弘 (天恵農場・おきたま自然農業研究会・山形)
小林 芳正 (万農塾・共生塾・福島)
佐々木 寛 (岩手有機農業研究会・身土不二いわて・岩手)
佐々木陽悦 (JAみどり・宮城)
佐藤 誠 (秋田県有機農業研究会・秋田)
志藤 正一 (農事組合法人庄内協同ファーム・山形)
島津勢津子 (岩手有機農業研究会・岩手)
菅原 悦子 (岩手食文化研究会・岩手)
菅原 萬一 (岩手コンポスト・岩手)
相馬喜久男 (大潟元気グループ・秋田)

会場・懇親会・宿泊先 案内図

会場までのアクセス

盛岡I.Cから

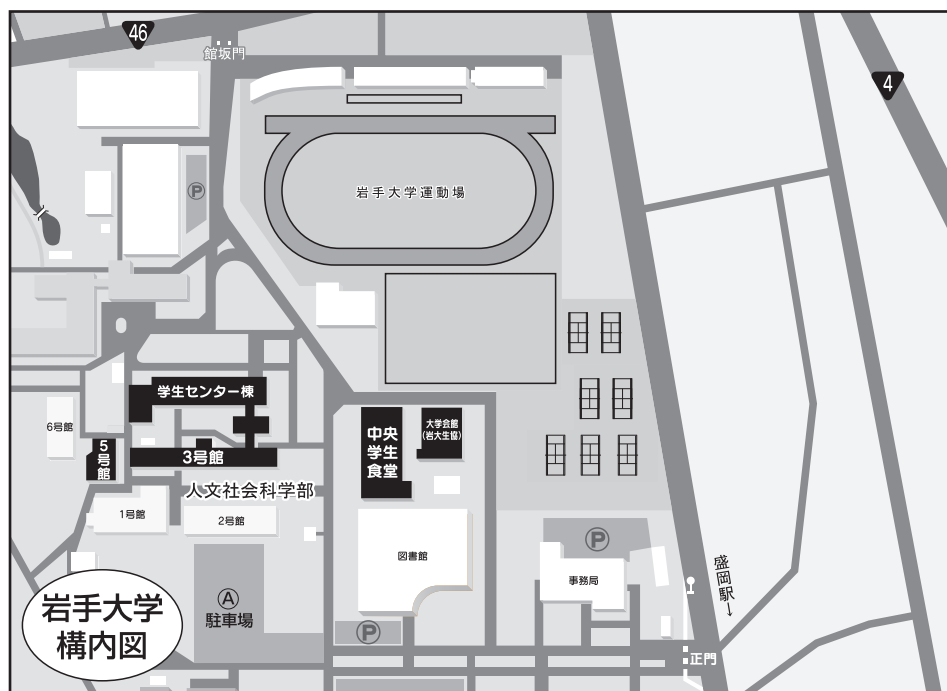
→ 46号線を「盛岡市内方向」へ車で約15分。

※車の方は、岩手大学「正門」から入り、
駐車場①にとめてください。

盛岡駅から

→ タクシーで約15分。

→ 駅前バスのりば ⑪「松園営業所」行き
「岩大前」下車。約20分。



メイン会場

人文社会科学部5号館1F
51大講義室

分散会場

人文社会科学部3・5号館
学生センター棟講義室

懇親会会場

岩手大学生協中央食堂

宿 泊

岩手第1ホテル
(岩手大学より徒歩10分)

初日(26日)の昼食は、岩手大
学生協の中央食堂・工学部食
堂が利用できます。

高橋 克公 (岩手県消費者団体連絡協議会・岩手)
高橋比奈子 (岩手県議会議員・岩手)
谷口 吉光 (秋田県立大学・秋田)
玉 真之介 (岩手大学・岩手)
土嶺 彰 (コープあおもり・青森)
戸澤 藤彦 (花咲農園・秋田)
中島 紀一 (茨城大学・茨城)
根本 洸一 (有機稲作ねっとわあく福島・福島)
野原 修一 (岩手県開拓振興協会・岩手)
平田 啓一 (おきたま産直センター・山形)
本田 強 (環境保全米ネットワーク・宮城)
三須田善暢 (岩手県立大学・岩手)
山中 洋 (生活協同組合共立社・山形)
横山 英信 (岩手大学・岩手)
吉武 洋子 (生活協同組合あいコープみやぎ・宮城)
吉田 桂次 (大東町地産地消ネットワーク・岩手)
渡辺 基 (岩手農民大学・岩手)

※12月9日現在、五十音順、敬称略

■ 協賛団体

岩手県消費者団体連絡協議会
岩手県生活協同組合連合会
いわて生活協同組合
岩手県農業協同組合中央会
いわてコメネット
岩手有機農業研究会
岩手農民大学
大東町有機農産物等生産組合
身土不二いわて
JA岩手県女性組織協議会・岩手
JA岩手県青年組織協議会・岩手
西和賀農業協同組合
湯沢市有機米栽培研究会
湯田牛乳公社
地産地消運動を促進する岩手県協同組合協議会



会場

※会場には駐車場があります。岩手第1ホテルに宿泊される方は最初からホテル駐車場にも駐車できます。
(いずれも無料)

懇親会

※懇親会の中で、「わが地域・団体の生産物・商品のじまん大会」を行います。すぐ食べられるもの、飲めるもの
の紹介と提供を大募集します。

宿 泊

※ホテルの宿泊数との関係で、先着88名までとなります。

※88名を超えた場合、また最初から別のホテルを希望する方は、以下のホテルに各自でご予約をお願い致します。いずれも盛岡駅前です。

ホテル東横イン(盛岡駅前通14-5)

電話 019-625-1045

盛岡シティホテル(盛岡駅前通8-14)

電話 019-651-3030

盛岡メトロポリタンホテル(盛岡駅隣接)

電話 019-625-1211

参加費など

全日程参加（シングル宿泊の方）11,000円（ツイン宿泊の方）10,500円

参加申込方法

この参加申込書に記入し送付またはFAX後、下記口座に必要な金額をお振込ください。

銀行口座 岩手銀行青山町支店 普通口座 2029405

農を変えたい東北集会 in いわて 実行委員会 事務局 金子成子

締め切り 2008年1月15日(火)

人数と合計金額を
書いてください

集会参加のみ	2,000円
--------	--------

人

懇親会まで参加 6,000円

人

宿泊も希望 (シングル) 11,000円

人

(ツイン) 10,500円

人

送金額

